

大学生への語彙指導の新しい形の提案

言語学フェスタ@オンライン実施

2022年1月28日（土）13:00~14:30

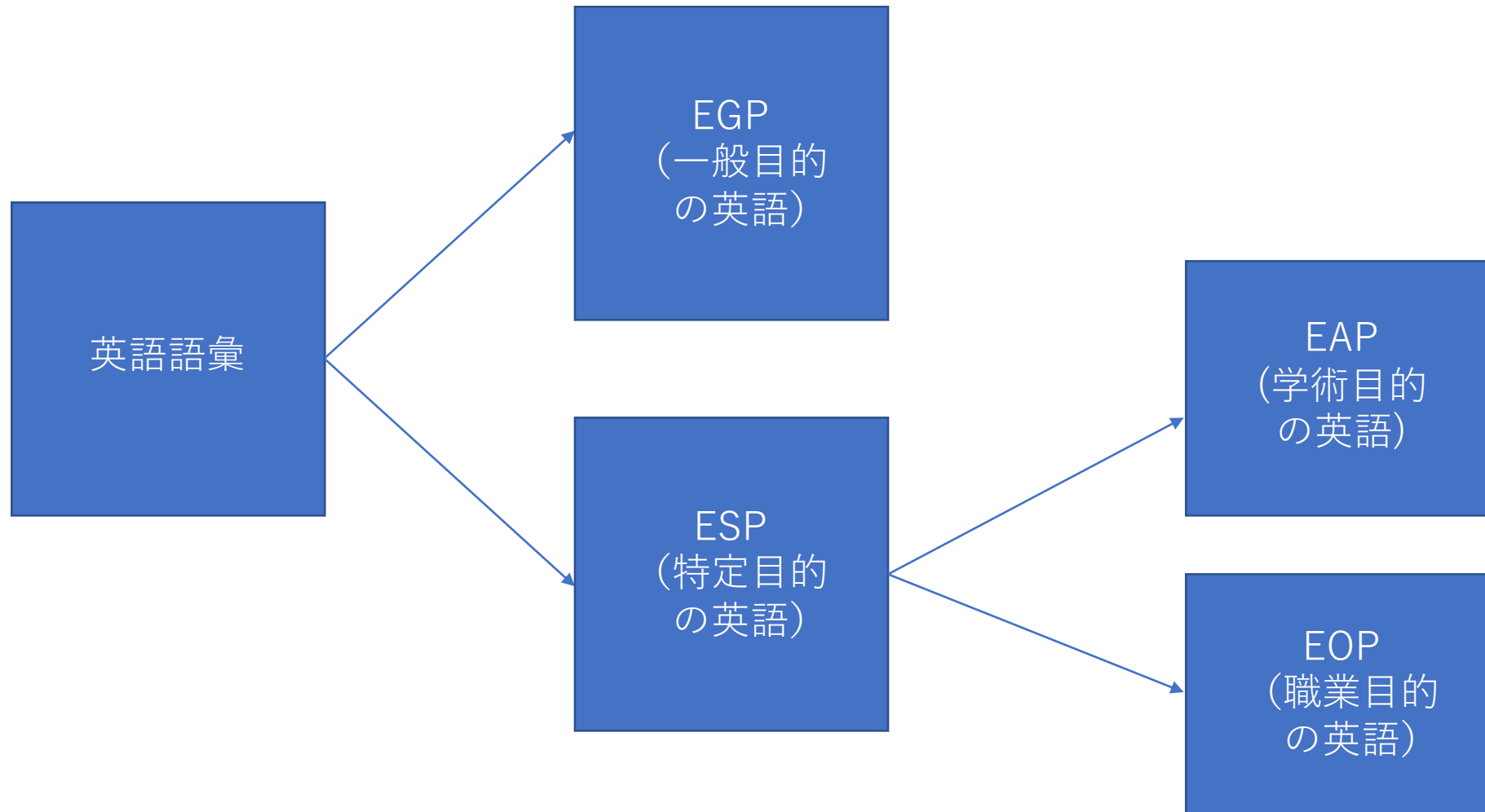
飯島尚憲（Hisanori Iijima）

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程

hisanori@keio.jp

これから発表するものは
これから研究するものの
構想発表も兼ねています

研究背景—大学生向けの新しい語彙テストの開発



これまでの語彙テストの問題点

- 主に3つに分かれる（対象は大学生）
 - 大学生に特化したテストが少ない
 - 大学生でも英語学習を続けたいと思う人が多いらしい
 - 高校生までは受験勉強というゴールがあるが、大学では千差万別
 - オンライン上でのテストが少ない
 - 紙媒体の場合、何度でもランダムに行えないという欠点がある
 - テストをゲーム感覚で取り組むという感覚が大事（定期テストではない）
 - 学術目的に偏っていることが多い
 - 学術目的の語彙だけではない
 - それぞれの目標に合わせたテストが必要なのではないか？

それらを克服できるテストの提案をする

問題点① 大学生に特化したテストの不足

- 大学生が学ぶべき語彙は大きく分けて2つ
 - 共通語彙—どの分野にも共通して出てくる語彙
 - 分野語彙—特定の分野で使われる語彙（例：工学系語彙、など）
- 共通語彙については
 - 共通語彙と分野語彙を別々に学ぶ？
 - どのように作るかが問題→ワードリストの問題になる
 - ワードリストについては、金丸（2005）を参照されたい
- 大学生の英語学習動機についてのアンケート（筆者が行ったものであり、まだ論文にまとまっていないが…）→**大学初年時には英語を学びたいという意欲を持った人が多い**

問題点②オンラインのテストの不足

- **オンラインのテストが明らかに不足している**
 - 何回でもテストに取り組める環境を作った方が学習効果が高い？
 - ランダムで出題する機能を揃える（順番通りに覚えるのを防ぐ）
- **テストが教えるための材料になっている（教材→学材）**
 - 本来、語彙テストは教えるためではなく「学ぶため」にある
 - そもそも、大学生向けの語彙リストの開発をする必要がある
 - 語彙指導というのは軽視されてきた概念（Meara, 1980）
 - 今でも単語は独習するものという概念があるのでは？

問題点③学術目的に偏っている

- 大学の目的—研究者養成？とは限らない
 - 大学の目的は研究者養成とは限らない
 - さまざまな大学があって、さまざまな理念がある
 - むしろ研究者養成は一部の大学の専売特許になっているのでは？
→さまざまな目的に特化する方が良いのでは？？

それらの問題を解決するには

- 大学生のニーズ分析
 - 正確にどのようなニーズがあるのか分析してみる
 - 教える中で把握しているつもりでも、ズレがあったり
- オンラインで単語アプリを開発する前の設計をしっかりとる
 - **ただの丸暗記アプリは避けたい**
 - **単語のさまざまな側面の学べるアプリの開発**
 - **単語は質 > 量 (Laufer, 2017)**
- 何度でも受験機能がついている機能をつける
- まずはワードリストを作ってみる等

参考文献

- 金丸敏幸, 笹尾洋介, & 田地野彰. (2009). 京都大学学術論文コーパスを用いた学術語彙リストの作成.
- Laufer, B., & Aviad-Levitzky, T. A. M. I. (2017). What type of vocabulary knowledge predicts reading comprehension: Word meaning recall or word meaning recognition?. *The Modern Language Journal*, 101(4), 729-741.
- Meara, P. (1980). Vocabulary acquisition: A neglected aspect of language learning. *Language Teaching*, 13(3-4), 221-246.